

様式 - 1

平成26年度 当初予算 公共事業評価システム 個別サマリーシート(新規事業)：事業地区・箇所別概要 (1

1 事業の基本データ

計画事業名	事業CODE	事業名	地区・箇所・路線名	
		河川改修事業	二級河川中ノ川	
事業担当課	課CODE	担当課	担当班	電話番号
	170090	河川課	河川事業班	059-224-2679
事業施工場所	CODE	地域(市部・郡部/一般・過疎・準過疎)	市町字名	
	30	鈴鹿・亀山 市部 一般	鈴鹿市 御園町	
事務事業名	河川改修事業			
基本事業名	洪水防止対策の推進			
公共事業評価システムにおける分野名	災害の防止			

2 事業計画の概要

事業計画の概要				
根固工	L=50m		事業着工	2014年度
			事業完了	2020年度
			供用開始	2021年度
			B/C 評価期間	30年
			全体計画事業費(億円)	0.630
			全体計画工期(年数)	7年
事業の目的				
中ノ川は昭和63年に整備を完了しているが、整備後25年を経過し、当該区間では経年変化により河床低下が著しく、護岸の崩落が懸念される。このことから根固め工を設置し河床の安定を図りたい。				

3 経済効率性評価(費用便益分析)

計算テーブル	便益分類			便益(億円)
テーブル1	自然防御機能維持	自然防御機能維持便益	水源の涵養便益	
			土砂流出等の災害防止便益	
テーブル2	土砂流出等の災害防止 洪水等の災害防止 高潮・波浪・浸食等の災害防止	災害防御機能拡充便益	人的被害軽減便益 資産被害軽減便益 営業停止損失軽減便益 応急対策経費節減便益	0.69
テーブル3	アクセス環境の向上	アクセス機能向上便益	アクセス時間短縮便益 アクセス経費節減便益	
		交通事故減少便益	人的被害軽減便益 資産被害軽減便益 応急対策経費節減便益 事故渋滞便益	
		環境改善便益	大気質汚染抑制便益 騒音被害軽減便益	
		待避・避難機能向上便益	待避・避難時間削減便益 待避・避難経費削減便益	
		快適性向上便益	歩行者便益	
		交通遮断防止便益	アクセス時間増加抑制便益 アクセス経費増加抑制便益	
テーブル4	生活環境の向上	水質汚染抑制便益	水質汚染抑制便益	
		家畜排泄物処理便益	家畜排泄物処理便益	
		大気質浄化・騒音遮断等便益	大気質浄化便益 騒音遮断・飛砂等軽減便益	
テーブル5	レク機能等の提供	余暇空間創出便益	余暇空間創出便益	
テーブル6	生産性の向上	生産効率向上便益	労働時間短縮便益 生産経費節減便益	
		生産基盤拡充便益	単位生産量増便益 生産規模・機会増便益 耕作維持・利水便益	
テーブル7	その他	土地創出便益	土地創出便益	
		更新便益	更新便益	
		廃用損失	廃用損失	
粗便益 (現在価値合計) : B' (億円)				0.69
テーブル8	環境評価	自然環境	WTP × 受益世帯数	
		景観	WTP × 受益世帯数	
		文化	WTP × 受益世帯数	
		快適性	WTP × 受益世帯数	
		安全・安心	WTP × 受益世帯数	
粗便益 (現在価値合計) : E (億円)				0.00
粗便益 (現在価値合計) : < B' + E > (億円)				0.69
地域 鈴鹿・亀山 に対応した地域係数 -----				1
便益(現在価値合計) : B (億円) ((B' + E) × 地域係数)				0.69
費用(現在価値合計) : C (億円) (費用計算テーブルより)				0.61
費用便益比 : B/C				1.14

費用便益分析に関する特記事項

このシートの費用便益値は、三重県方式により算出したものであり、国の定めた算出手法とは異なります。

様式 - 2

平成26年度 当初予算 公共事業評価システム 個別サマリーシート(新規事業)：事業地区・箇所別概要(2)

1 事業の基本データ

計画事業名	事業CODE	事業名	地区・箇所・路線名	
		河川改修事業	二級河川中ノ川	
事業担当課	課CODE	担当課	担当班	電話番号
	170090	河川課	河川事業班	059-224-2679
事業施工場所	CODE	地域(市部・郡部/一般・過疎・準過疎)		市町村字名
	30	鈴鹿・亀山	市部 一般	鈴鹿市 御園町

2 政策的重要度評価(個別評価)

(a) 戦略性

【全分野共通要件】

1	
2	
3	他事業と一体的に整備する必要のある事業

(具体的な内容の記述<上記の補足事項>)

当地区は中勢バイパス事業が進められており、道路建設に伴う流出量の増加と、今後の開発の進展が見込まれ、河川管理施設の改修の要望がある。

(b) 緊急性

【当該事業分野の事項】

	構造物の老朽化の程度等から見て、保全を必要とする区域の保全

(具体的な内容の記述<上記の補足事項>)

中ノ川は昭和63年に整備を完了しているが、整備後25年を経過し、当該区間では経年変化により河床低下が著しく、護岸の崩落が懸念される。

(c) 熟度

【全分野共通要件】

1	同盟会や促進協議会等が設立されている事業
2	
3	協力体制があり、整備に対して熱心な要望がある事業

(具体的な内容の記述<上記の補足事項>)

中ノ川は昭和63年に整備を完了しているが、中ノ川改修工事促進期成同盟会から熱心な要望がある。

【評価結果(優先度判定の結果)】